

### 温水浸漬試験

温水浸漬試験は、せん断試験体を40℃の温水の中に10日間放置し、取り出してから23℃の室内に3, 24, 48, 168時間放置した後、せん断強度と破断時の伸びを測定した。浸漬試験の値は、あらかじめ測定しておいた浸漬していない試験体のデータと比較をし、特性の変化を把握した。

目的としては、構造体へダンパーを取り付けた後に火災が発生した場合の放水作業によるISD111材の吸湿特性の確認である。Fig. 35, 36が温水浸漬試験の結果であるが、取り出し後3～48時間までは吸水による破断強度が低下し、反作用として伸び量の増加が見られる。しかし、168時間後(=7日後)には破断強度、伸び量共にほぼ初期値に戻っている。よって、温水に漬かるような状態であっても、漬かっていた時間とほぼ同じ時間があれば元の特性に戻ることが確認出来た。

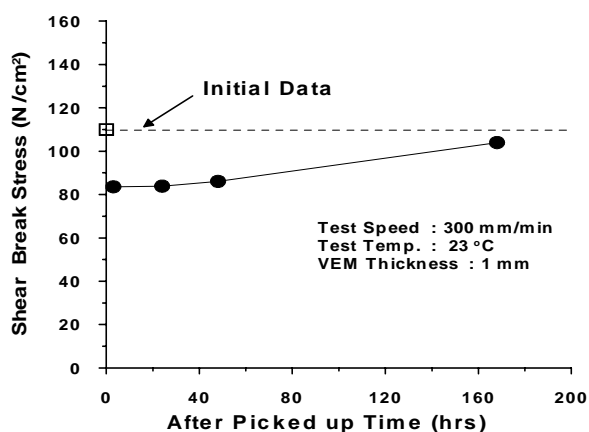


Fig35: Shear Break Stress after Picked up Samples from Hot Water

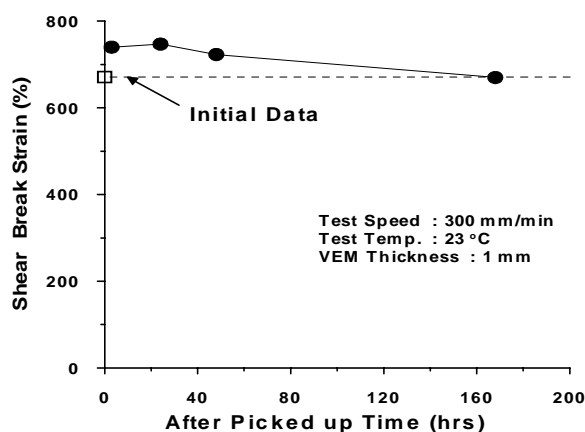


Fig36: Shear Break Strain after Picked up Samples from Hot Water